

令和6年度調布市中学生被爆地平和派遣事業
ちょうふピースメッセンジャー2024
報告書

調布市 CHOFU TOKYO



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
街にまちづくり推進

戦争の恐ろしさをこれからも忘れることのないよう
ピースメッセンジャーとして行った長崎のことを家族や友達にもっと話したいと思う。

—ピースメッセンジャー感想文より—



はじめに

調布市は、「調布市非核平和都市宣言」及び「調布市国際交流平和都市宣言」の理念の下、毎年様々な平和祈念事業を実施しています。

令和6年度は、11人の中学生を市民の代表“ピースメッセンジャー”として被爆地である長崎へ派遣し、学びの成果を広く市民へ還元することを目指した「調布市中学生被爆地平和派遣事業」を実施しました。ピースメッセンジャーは事前学習会、長崎での戦争関連施設の見学や青少年ピースフォーラムへの参加などを通じて戦争・平和に関する学びを深めました。

この報告書をご覧ください、ピースメッセンジャーが学んだことが一人でも多くの方に伝わるとともに、平和の尊さを改めて感じ、考えるきっかけとしていただければ幸いです。

令和7年3月

調布市

目次

はじめに	
ピースメッセンジャーの役割	1
ちょうふピースメッセンジャー2024紹介	2
<hr/>	
第1部 ピースメッセンジャーの感想文	3
<hr/>	
第2部 ピースメッセンジャー活動報告	16
ちょうふピースメッセンジャー2024活動スケジュール	17
Part1 【学び】	
任命式	19
事前学習会①	20
事前学習会②(ピース部との交流会)	21
長崎平和派遣	22
事後学習会	28
Part2 【発信】	
活動報告	30
活動報告の内容	31
活動報告展示	37
平和祈念事業	39
黙とうの呼びかけ	
<hr/>	
第3部 ちょうふピースメッセンジャージュニアの取組	40
ちょうふピースメッセンジャージュニア2024紹介	41
ちょうふピースメッセンジャージュニアの活動内容	42
ピースメッセンジャージュニアの感想文	44
<hr/>	
第4部 自主活動	55
ピースメッセンジャー2024 田崎千鈴・遠藤葉月	56
ピースメッセンジャー2024 西須健吾	57
ピースメッセンジャー2024 岡本華奈	60

第5部	資料	61
	ちょうふピース部	62
	調布市平和展	64
	折り鶴プロジェクト	65
	平和首長会議	66
	日本非核宣言自治体協議会	67
	平和都市宣言(調布市非核平和都市宣言/調布市国際交流平和都市宣言)	68
	調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト	69
	その他平和祈念事業の紹介	70
	おわりに	72

ピースメッセンジャーの役割

ピースメッセンジャーには、以下の役割があります。

1 市民の代表として調布市長から任命を受け、戦争の悲惨さや平和の尊さについて意欲的に学ぶ

ピースメッセンジャーは、6月30日(日)の任命式から11月10日(日)の事後学習会まで、多くのことを学びました。

2 活動を通して学んだこと、感じたことや平和への想いを発信する

平和への想いをまとめたメッセージボードを作成し、イベントや市内公共施設での「活動報告展示」を通して多くの市民の方にご覧いただきました。

また、各種平和祈念事業に参加し、平和への想いを発信しました。

— 報告会 —

ピースメッセンジャー2024活動報告会での活動報告

— 活動報告展示 —

平和祈念祭

調布市文化会館たづくり エントランスステージ

第12回平和首長会議国内加盟都市会議総会

文化会館たづくり 11階みんなの広場

ちょうふピースメッセンジャー2024 紹介

市内在住又は在学の中学生11人が“ちょうふピースメッセンジャー2024”として活動しました。



荒川 なつみ	(あらかわ なつみ)	調布市立第三中学校(1年)
内田 大智	(うちだ だいち)	調布市立第五中学校(3年)
遠藤 葉月	(えんどう はづき)	調布市立第四中学校(2年)
及川 響大	(おいかわ きょうた)	調布市立神代中学校(2年)
岡本 華奈	(おかもと かな)	晃華学園中学校(3年)
小山田 穂香	(おやまだ ほのか)	調布市立第八中学校(2年)
西須 健悟	(さいす けんご)	調布市立第六中学校(2年)
鈴木 恋彩	(すずき れあ)	調布市立第八中学校(2年)
田崎 千鈴	(たざき ちすず)	調布市立第四中学校(1年)
立入 暖清	(たちいり はるせ)	調布市立調布中学校(1年)
温井 彪斗	(ぬくい あきと)	調布市立第七中学校(3年)

五十音順

※学校・学年は派遣時のものになります

第 1 部

ピースメッセンジャーの 感想文

ピースメッセンジャー一人ひとりの「感想文」と活動前・活動後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャーが作成した原文のまま掲載しています。



ちょうふピースメッセンジャー

ワクワクする!! 長崎派遣

〈今の私の気持ち〉
 私は、小学四年生の時に広島に行きました。その時はまだ戦争について、なににも知らなくて、ただ絵や当時着ていた服をただに見ていただけだった。そこで中学一年になった今なら、戦争について知れると嬉しかった!!

令和6年度
調布市平和祈念事業

〜派遣を通して〜
 〈長崎に行って考えたこと・感じたこと〉
 行く前は「戦争はふこならいけないことをみんな知ってるのになぜ戦争をやるの?」という客観的であまり深く考えていませんでした。そして、実際に長崎に行ってみると、鳥居が半分爆風によって飛ばされていました。原爆被害者の方々の悲しみ、喪失感、怒り、苦しみを心で感じることができました。もし、自分の家族があの一瞬の光で亡くなり、家もなくなったら、自分は心が深く傷つき、泣き続け、立ち直る事もできず、この世から消えてなくなりたいと思います。そう考えると、戦争は本当に悲惨なことなんだと思いました。また、生き残った人々の中で辛い思いをしたのに、語り伝え続けてきた原爆被害者の方々は立派だと思います。

調布

伝えたいこと

ピースメッセンジャーとして、戦争のことや命の尊さについて、友達や家族に伝えていきたい!!

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

8月8日、10日
長崎に行ってきました

〈長崎原爆被爆者〉
 1945年8月9日午前11時2分、アトムが投下された。

死者	73884人
重軽傷者	74909人
全焼	11574戸
半壊	5509戸

 〈熱線の温度〉
 爆心地: 3000~4000度
 1km: 1800度
 1.5km: 600度以上



長崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長崎に行って感じた事・思った事

荒川 なつみ

調布市立第三中学校(1年)

長崎に行く前は、「戦争したらいけないことをみんな知っているのになぜ戦争をやるの?」という客観的であまり深く考えていませんでした。そして、実際に長崎に行ってみると、鳥居が半分爆風によって飛ばされていました。原爆被害者の方々の悲しみ、喪失感、怒り、苦しみを心で感じることができました。もし、自分の家族があの一瞬の光で亡くなり、家もなくなったら、自分は心が深く傷つき、泣き続け、立ち直る事もできず、この世から消えてなくなりたいと思います。そう考えると、戦争は本当に悲惨なことなんだと思いました。また、生き残った人々の中で辛い思いをしたのに、語り伝え続けてきた原爆被害者の方々は立派だと思います。

私は中学生長崎平和派遣に参加して、どうしたらこの世の中が平和になるのか、またどうして戦争がおきるのか考えてみました。最初に戦争がおきる原因としては、お互いの損得だけで行動して、相手の意見を受け入れないことや、考え方の違いで戦争が起きると考えました。次に、この世の中が平和になるにはどうしたらいいかについてです。平和な世の中にするためには、1人1人が自分を大切にしたり、道徳で学んだように、自分のことや自分の国のことだけを考えるのではなく、相手を思いやる心が大切だと考えました。今現在も世界各地で戦争が起きています。1日でも1日でも早く戦争のない平和な世界になることを願います。



ちょうふピースメッセンジャー

派遣前

- ・作文の面判臭い……
- ・何人くらい募するんだろう…?
- ・あ、受かった。
- ・長崎じゃなくて広島が良かった…。
- ・原爆資料館へ行くことがあった…。
- ・長崎ちゃんぽんで我慢しよう……。
- ・派遣日の朝月早すぎだろ!!!
- ・生まれて初めて飛行機乗る…!
- ・楽しみだなぁ～。

調布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和6年度
調布市平和祈念事業



8月8日、10日
長崎に行きました

派遣後

- ・作文書いて良かった～!
- ・色々な人と話せて楽しかった。
- ・人生初の飛行機楽しかった～。
- ・平和の像が良かった……。
- ・原爆資料館えげつない……。
- ・食事会楽しくておいしかった～。
- ・温泉気持ち良かった～。
- ・温泉後のアイス最高～!
- ・昔の出来事によって起きた悲しい歴史は今も伝えられている。
- ・あの悲劇を今後一切起きるようなことにはあってはならないと思った。
- ・これから毛平和を大切に生きようと思った。

長崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

原爆の恐ろしさ

私は2024の夏、長崎へ派遣されました。私は祖母に勧められ、作文を書き、調布市長の任命により長崎へ仲間とともに行くための事前学習などいろいろな準備をし、生まれて初めての飛行機にのり長崎へ向かいました。長崎県では1日目から壮絶な経験をしました。被爆した方からのお話を聞き、当時の状況が残ったままの場所に行ったりしました。私は改めて原爆の威力の恐ろしさをこの身を持って実感しました。2日目は原爆資料館へ行きました。そこには一人佇む少女の横に核爆弾によって破壊された多くの建物と一つの頭蓋骨がありました。これほどまでに残酷で無残なことがあったのかと、改めて理解しました。

私はこの派遣事業を通じてもう2度と核爆弾が使われるようなことはあってはならないと感じ、外国の人々にも核爆弾の恐ろしさをよく知ってほしいと思いました。現代の核爆弾は当時使われた爆弾の約10倍以上の威力があると言われています。そのようなものが使われたら今度こそ国一つが滅ぶと思います。核のない平和な世界を心から願います。

内田大智

調布市立第五中学校(3年)



ちょうふピースメッセンジャー

長崎 山崎 行 2024/6/30 (日)

《今の気持ち》



学校と教員、子どもと見守るは重要で、自主的に原爆の被害に向かい寄り添うことが大切。

→ 未知 不明 瞭

なぜなら、戦争と原爆に対して、歴史を抵抗があるから。

→ この世界の平和と平和を知る必要がある。

《この日の学習、長崎派遣に感じたこと》

今日は「知ること」以上の知識が無い状態... 事前学習、長崎派遣当日、事後学習 すべてを通じて、目、耳、心で当時を知ることができた。

今日で知ることが出来、悪く言えば知ることが出来た。平和市民の代表として、知り、伝えたい。

仲間と乗っかかると、戦争、原爆のことが思い出せると思う。

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日、10日
長崎に行ってきました



長崎 山崎 行 た 後 2024/10/6 (日)

《派遣に行きつづけたこと》

師走はあつたけど、やっぱり知ることは大事だと思うようにした。

知ることができると、心で伝えたいなと思った。

《心に残った事柄》

『長崎を最後の被爆地に』 という言葉

核兵器がどこの国でも脅威になりかねない。

知るべきだと思う。

核だけじゃなく、戦争、その中でも、山崎の命を奪った。残った人達の心に大きな生損なっている傷を負ったと思う。

《派遣に行きつづけたこと》

広島に原爆が落ちた日 1945年 8月6日

長崎に原爆が落ちた日 1945年 8月9日

終戦の日 1945年 8月15日

改めてこの30の日を覚えてほしい。

調
布

長
崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長崎に行って感じたこと

遠藤 葉月

調布市立第四中学校(2年)

私は8月の8日から10日の3日間長崎に行った。この3日間で私はより平和の大切さ、尊さを感じることができたと思う。特に印象的だったのは山王神社の一本足の鳥居だ。あんな硬い石の鳥居の半分が綺麗に無くなっていることにとっても驚いたと同時に原子爆弾の恐ろしさを感じた。当時のことを考えると、自分が歩いた道でさえも怖かった。交流会では同じ目的がある仲間と交流し、学習することができた。こんなにも同じ思いの中学生がいるんだなと嬉しくなった。今までは言い方が悪いけど原爆資料館に行くのが本当に嫌だった。惨劇の写真を見るのも辛い眠れなくなってしまうこともあったからだ。

でもみんなと行ったから、怖さはあっても知ることができたと思う。一緒に行ってくださった馬場さんが「深刻に見るのではなく真剣に見ることが大切」と言ってくれて、少し心が軽くなった。原爆が投下されてから79年、来年80年を迎える。79年前の技術であれほどの被害が出るのであれば、今の技術を使って兵器を作ればどれほどの被害が出るかと考えるだけで怖い。一人一人が考える、意識するだけでも、立派な平和活動になる。戦争の恐ろしさをこれからも忘れることのないよう、自分もピースメッセンジャーとして行った長崎のことを、家族や友達にもっと話したいと思う。



ちょうふピースメッセンジャー

平和について学んだり、原子爆弾が落とされた長崎の地に実際に行き、戦争の跡を見ることのできるという貴重な体験をすることができるとてもわくわくしている!

自分と同じピースメッセンジャーと共に、ながさきに行くのはとても楽しい!

ながさきに実際に行った後、市内外へ発信できるかどうか少し心配。

戦争のことをあまり知らない自分

今の自分

6/30の今の自分の気持ち

伝えたいこと

今の自分は何を伝えたい?

命の華さ

戦争の恐れ

平和の大切さ

今年戦争は起っていない。身近な人から学んだことを伝えたい!

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日、10日
長崎に行ってきました



ピースメッセンジャーとして活動して……

実際にあったこの事実を風化させないようにすることが大切!

どのようにして伝えたいだろうか?

戦争はなくしたいけれど、僕一人で戦争をなくすことはとても難しい……。自分は何をすれば良いか?

今回のピースメッセンジャーとしての活動を通じ、戦争の残酷さを改めて感じ、また実際に見たり、聞いたり、戦争や平和に対する理解や自分の考えが深まった。

ピースメッセンジャーとしての活動に参加した自分

長崎平和派遣を通じ、実際に被害を受けた二の島屋や長崎医科大学の正門門柱を見たり、被爆した松尾さんの話を拝聴し、以前に比べて本当に恐ろしいと感じた。実際にあったこの歴史を忘れないようにするためにも、今回学んだことを広く発信していきたい。

→ 第一歩として、今回学んだことを家族や友達に伝えたり、話し合ったりする。

後世につなげ、平和について理解してもらえば、少しでも平和な世界の実現に近づけることができるのでは?

これは、ピースメッセンジャーとしての重大な使命だと考えるので、頑張ります。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

長崎

核兵器のない世界が訪れる未来を信じて

長崎派遣事業に参加し、原子爆弾や戦争そして平和について様々な貴重な体験をすることができました。そして同じ志を持つ仲間と一緒に学んだことで心強く、意見も交換することができ、一人では学び得ないことをより深く学ぶことができたと思います。今年日本被団協がノーベル平和賞を獲得しました。この一報を聞いた時このことは原子爆弾の恐ろしさが認められた瞬間であり、平和の大切さを伝えるために活動している私に活動を続ける活力と勇気を与えてくれました。被爆者の一人である田中熙巳さんの受賞演説の中にあつた「核兵器は人類と共存できない、共存させてはならないという信念が根付くこと」という言葉を聞き、長崎でのフィールドワークなどの現地活動を終えた私はそのような世界が訪れてほしいと強く感じました。

そのためには、核廃絶の考えを風化させないことも大切だと考えます。私は家族や友だちに学んだことを伝えて、実際に現地に足を運んでもらい体験してほしいと思います。また、核兵器廃絶のための知識をこれからも増やしていきたいです。このような貴重な体験をさせていただいた、全ての方々に心より感謝申し上げます。

及川響大

調布市立神代中学校(2年)



ちゅうふピースメッセンジャー

今の自分 2024/06/30(日)

Feeling

今日この会場に来るまでは 新にお友達が出来たのドキドキしてた！ けれど、自分から話しかけに行きたらすぐにみんなと仲良く出来た嬉しい！！ 学校外の活動に参加するのは初めてだけど、楽しくて、今後の活動が楽しみ！ わわわ！！

Overall Goal

この活動を通して平和や戦争について学び、自分の考えを伝えること。みんなと活気のある活動にしていきたい。

free

若い内にやりたいこと、挑戦したいことを多く経験したい！ 今夢で **国連で働くこと** ！！
 に少しでも近づけるような実りのある活動にしたい！！

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日、10日
長崎に行きました

派遣後の自分 2024/10/06(日)

My own change

自分の中で変化したこと(成長したこと) (平和や戦争や平和に対する意識が高まったこと。当時の状況で学んで、戦争や核兵器の恐ろしさ、防衛費を今後どのくらいに抑えたいかと思った)

Impressive thing

印象に残った事は、ピースフォーラムと被爆者講話だ。ピースフォーラムは全国の人達と意見交換をし、新しい考えや価値観を学んだ。また、全国の人と友達になんて、コミュニケーション能力も上がったと思う。被爆者講話では実際の声を生で聞いて、とても有意義な時間だった。

From now on

被爆者講話での「あの平和は戦争の犠牲を多くの人に与え、平和を守りたい。多くの人の戦争に対する意識を高めた。

調布

長崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長崎平和派遣から得たこと

岡本 華奈

晃華学園中学校(3年)

私は長崎平和派遣事業から様々な学びを得た。戦争と平和についての見解を深めたのは前提として、私は将来の展望や本当にやりたいことを発見することが出来た。本事業では自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じながら戦争の惨禍を学ぶことができ、とても有意義な時間であった。これらの経験から新しい視点が見つかり、視野が広がったり、世界の平和を守りたいと考えるようになった。また、自分の好きなことを追求できること、大切な人と一緒にいられること、夢に向かって行動できること、これらがどれだけ幸せなことなのか実感した。現在でも世界には戦争も核兵器も存在し続けていて、安心して生きられないという現状がある。

世界の平和を守るには、戦争や核兵器を廃絶する必要があるだろう。私は自分事として考えるうちに、国連職員になり、戦争と核兵器の廃絶を実現したいと考えた。

本事業参加前と比べ、自分の心境が大きく成長できたことに本当に感謝に堪えない。私の活動を応援して下さった方々、本事業を企画、実行して下さった方々、派遣をサポートして下さった方々、その他大勢の方に深く感謝を表したい。

何不自由なく幸せに生きられることに感謝し、夢の現実に向けて日々精進していきたい。



ちようふピースメッセンジャー

友達とナカサキへ
行くのは楽しみ!

7月6.30

今まで原爆資料館を見に行っても、暗い気持ちには、終わってしまうので「楽しい」とは言えなかったけど、今日は「ピースメッセンジャー」として、悪い気持ちだけで終わらせずに、活動することができるので、わくわくしています!

<意気込み>

被爆者の話や資料はこれから、原爆についても、知り、学ばたいです。また、現在の「平和」を続けていくための活動へとつなげていきたいです。今、ウクライナやガザなど、世界で起きている戦争に対し、何か自分ができることはありますか? と考えられる人を増やせるよう、頑張ります。



ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日~10日
長崎に行きました



派遣を終えて

8月10.6

<フィールドワーク交流会で学んだこと>
交流会では、平和のためには何か必要か戦争はなぜ起るのか、という内容について話し合ったり、自分は平和のために何ができかについて考えたりしました。私は、戦争は自分の「怒」や「感情」を我慢し合えば減るのではないかと感じました。

フィールドワークでは、被爆地の元の姿、当時の姿、今の姿について学びました。初めて防空壕や当地の地面を見て、ずいぶん感じる戦争の跡は、今も残っているのだから改めて感じました。

今の日本では、平和が当たり前にはなっていないけれど、現在も他の国で戦争は起きているから、「平和は自分で守らなければいけないもの」と、多くの人に思ってもらえるよう、活動をしたいです。

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後感じた変化と、これからの抱負

調布

長崎

長崎ピースメッセンジャーに参加して

私は、このピースメッセンジャーに参加するまで、戦争は怖く悲惨だから、絶対に繰り返してはいけない、ということだけを強く思っていました。しかし、ピースフォーラムや交流会を通して、なぜ戦争は起きるのか、止めるためにはどういう考えが必要か、について話し合ったことで、視野を広げることができました。

長崎への派遣は、とても楽しいものでした。真剣に考える時間と楽しく遊ぶ時間が交互にあることで、重く深刻になりかけた気持ちを切り替え、前向きに考えることができました。

また、同じ考えを持つ仲間が近くにいるので、安心することができました。

中でも、被爆当時のものが残っているとところへ行ったのは印象的でした。巨木や大きな鳥居、門までもが大きく移動し破壊されていたのを見て、改めて原爆の脅威を感じました。そして、戦争の傷はいつまでも絶えないものだと感じました。私は、この被爆の跡は、しっかり残していかなければいけないと思います。実際に見たほうが惨状を感じることが出来るからです。

被爆した方もどんどん減ってしまっているので、話を聞いた私たちの手で、戦争の恐ろしさを伝えていかなければいけないと感じました。これからもピースメッセンジャーとして、多くの人に戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。

小山田穂香

調布市立第八中学校(2年)



今の自分

平和な環境で生活している。
平和を知っている。
平和しか知らない。
平和のない環境を知らない。
平和がどれだけ大切で、尊いものなのかわからない。

未来の自分

平和な環境で生活している。
平和を知っている。
平和のかけがえのなさを知っている。
平和を絶対に守る思いを持っている。
平和を守る思いを人に伝え、紡ぎ、繋げていく。

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月30日、10日
長崎に行ってきた



〈変化〉

①前 平和という難しいテーマに対し、自分の考えをもっていなかった。



②後 話し合い活動で考えを掘り下げ、自分の考えをもつことができた。

〈もった考え〉

互いの違いを理解し受け入れるために、コミュニケーションをとることが大切。

話し合いなど考えを深める機会を活用し、自分の意見をもとう!

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

調布

長崎

経験から引き出す考え

西須 健悟

調布市立第六中学校(2年)

私がピースメッセンジャーになろうと思ったきっかけは、中学一年生の時の、国語の感想文の課題だった。それは授業で扱った教材を読んだ後に考えたことを書くもので、当時は戦争をテーマにした作品の学習をした後だったから、私は戦時中の人々の生活について調べて書こうとした。書いているうちに私は戦争のことを全くと言っていいほど知らないことに気づいた。私は、自分の意見は自分の経験に基づいて述べたい。だから、少しでも戦争について知見を深め、自分の意見に繋げることが私の大きな目標だった。

現地長崎で行ったフィールドワークでは自分の目で、耳で、足で被爆地で起こった悲劇と復興の軌跡を感じ、平和祈念式典では平和を願う人々の思いの強さを知り、青少年ピースフォーラムではそれらの新しい発見を踏まえて仲間と話し合いながら考えを深め、自分の行動の指針となる平和宣言をすることができた。

ピースメッセンジャーとしての活動を通して、戦争と平和について見聞きしたことを知識として頭に入れるだけでなく、感じたことを頭の中で書き出し、自分がどう思うか、何をすべきかということ強く認識する機会になったことが、私の中で最大の達成だ。これからもこの貴重な体験を忘れずに生きたいと思う。



私の志望動機と目標!

◎きっかけ

今もテレビで他の国が戦争をしているのを見る。自分は体験していないから「大変だな～」としか感じない。しかし、テレビで見たのをきっかけに戦争のことを調べ始めた。それから戦争に対する感心が高まり、「よし、行こう!!」と決めた。

◎目標

1. 体験者の話を聞き、戦争に対する感心をもっと高める。
2. ピースメッセンジャーとして責任を持って行く。
3. 派遣後1人でも多くの人に話す。

調布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私。

令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日、10日
長崎に行ってきました



心に残ったこと

原爆資料館で写真や絵を見たこと
→実物を見るのは初めてだったから
迫りも妻もかたし、当時の状況を
よく理解することができたから。



帰ってきてから変わったと思うこと

戦争等の情報に今まで以上に
感心を持つようになった
→毎日のようにどこかの国が
争い事をしていてテレビで見ない日
は無いから。



伝えたいこと

核の恐ろしさを多くの人が知ってほしい
→核を使うことで一度に多くの人が
亡くなり、たくさんの人が悲しい思いを
してしまうから、二度と核を使ったら
いけないということを伝えたい。



ピースメッセンジャーの活動へ参加した後感じた変化と、これからの使命

長崎

平和が私に教えてくれたこと

私は今までの活動を通して感じたことは二つあります。

一つ目は実際に体験するという事です。今の時代インターネットという便利な機能が存在する中で実物を見たり、話を聞いたりする人は少ないと思います。しかし、写真で見た時の感想と実物を見た時の感想は違うと思います。なので実際に体験してみたいです。

二つ目は命の尊さについてです。特に長崎原爆資料館で感じさせられました。展示されていた写真や核の模型を見るたびに圧倒され言葉が出ませんでした。二度とこのようなことが起こらないでほしい。と思い、命そして平和の尊さを改めて感じる事ができました。

最後に伝えたいことです。私はピースメッセンジャーの活動を通して、命や平和の大切さ、尊さ、そして「ナガサキを最後の被爆地に」という二つのことを伝えたいです。

世界から核が無くなるためには、一人一人が戦争に興味を持ってほしいです。そのために私は率先して行動したいです。

鈴木 恋彩

調布市立第八中学校(2年)



長崎に行く

〈任命式を終えて〉
 長崎派遣に選ばれて嬉しい気持ち
 そして、ずっと「今」知っている以上の戦争の悲惨さ
 争いが産み出した人非道的な行動を知るの少し
 怖い気持ちがある。そして平和の尊さを伝えていく
 大切な責任がある。
 今でも戦争で苦しんでいる人がいる。旧でも早い世界
 恒久平和を待ち望んでいる人がいる。私ができる
 事は少ないかもしれない。それでも平和を伝えるこ
 とはできる。そのために世界中の平和への思いを
 一つでも多く感じ取る活動にしたい。

初めて会った仲間同士同じ思い
 であることが伝わった。
 学年を越えて仲が深まり
 このメンバーならし、かり
 学習できる!と思う。
 核兵器廃絶とその先
 にある世界恒久平和の
 宣言をし、かりと受け
 とめたい。



令和6年度
調布市平和祈念事業

8月8日、10日
長崎に行ってきました



ナガサキからのメッセージ

カタカナで表言記される長崎には被爆地としての世界へ発信
 する使命があることを学びました。
 派遣に行き「平和と命を大切にすることがいかに難しいことか
 を学び、私達があたり前にしている平和を守り続けることが
 重要か考えました。そして同年代の人たちとの交流は平和の尊
 さを考えるいい機会となりました。
 平和祈念式典の荘厳な空気は衝撃的で、深く感じられました。
 被爆者の高年齢化により被爆体験を語る機会が減り
 ますが、私は「核兵器のない世界の実現」を願う強い気持ち
 をし、かり感じることができました。
 ピースメッセンジャーであることに自信を持ち、世界恒久平和を待ち望む
 人たちの思いを伝えたい。長崎の地で学んだ被爆者世界
 を復元する「ナガサキ・メッセージ」は、石倉が私に伝授しました。



調布

長崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化とこれからの視点

受け継いでいくナガサキメッセージ

同じ思いを持つ仲間と共に平和の像
 の大きさと、世界中の平和への思いの重
 さを感じたいという思いを胸に、私は長崎
 の地を踏みました。

七九年前の長崎では想像もできない
 惨状が広がっており、その大きさを伝える
 被爆建造物を見学することができました。
 仲間が一緒だったので、たくさんの現存
 する資料を見て現実に起こったことを心
 で感じる事ができました。平和の像はま
 さに今の私達に世界平和への警鐘を鳴
 らしているように見えました。調布市では、
 サイレンで追悼と黙祷を呼びかけていま
 す。来年からは平和を考える思いが強
 くなることでしょう。

また被爆者の方が「核のおそろしさ
 を知るべき」と訴える姿は、力強く次の
 世代にナガサキ・メッセージを伝えてい
 ると感じました。私にできることは、伝え
 る力、伝わる力を信じ、ピースメッセン
 ジャーであることに自信を持ち「活動の
 核」になることを目指すことだと思いま
 す。

各地から集まった同年代の人たちと
 の交流は、平和の尊さを考える良い機
 会となりました。「長崎を最後の被爆地
 に」と強く訴え続ける長崎で、平和と命
 を大切にすることがいかに難しいかを
 学びました。

お互いの意見を尊重し、対話で問題
 を解決する道を選び、探していく努力を
 続けていきます。

田崎 千鈴

調布市立第四中学校(1年)



ちょうふピースメッセンジャー

《長崎に行く前の自分》

私のあな市ちゃん
ピースメッセンジャーとして
青赤ストリートで長崎の
体言を伝えている姿を
見てかこいれと思い
私も色々な人に長崎
で学んだ事を伝えたいです

PEACE

調布

ピースメッセンジャーの活動へ参加する前の私

令和6年度
調布市平和祈念事業



8月8日10日
長崎に行ってきました



〈長崎に行って〉

私は言調布ピースメッセンジャーとして長崎に行ってきました。印象に残った事は、火暴にササユキ公園に行けたこと。今は、同じが象徴で囲まれているけど、原爆が落とされた日は、火の炎だと考えたらどうでしょう。日本も戦争で多くの人が亡くなりました。世界でも同じような事が起きているんじゃないかと思いました。今も戦争が起きます。戦争は悲しみしか生みません。もうこんな事が起きない様に、全世界が仲良くなれば戦争が無くなって平和になると思います。



長崎

ピースメッセンジャーの活動へ参加した後に感じた変化と、これからの使命

長崎派遣を経て

今回、ピースメッセンジャーとして長崎に派遣され一番印象に残ったのは、平和の像を見れた事です。派遣前に僕は、スマホなどで長崎のことを調べていました。調べているうちに、戦争の悲惨さを感じたと同時に、二度とこの様な事を起こしてはいけないという平和を象徴している姿を見て感動しました。

他に感動したのは山王神社の参道にある二の鳥居です。画像で見るよりものすごく迫力があり、爆風によって一本だけ立っている姿を見て、今もどこかで戦争が起きている事を改めて悲しい事だと感じました。

戦争は悲しみしか生みません。長崎派遣に行ってよくわかりました。オリンピックが盛り上がったように、争うのはスポーツだけで良いと思います。争う事は誰も望んではいません。もうこんな事が起きない様に、全世界が仲良くなれば戦争が無くなって平和になると思います。

立入 暖清

調布市立調布中学校（1年）

第2部

活動報告

ちようふピースメッセンジャー2024の平和活動を2つのパートに分けて紹介します。

ピースメッセンジャーに任命されてから報告会までの活動について紹介します。

ちようふピースメッセンジャー 2024 活動スケジュール

令和6年	6月30日(日)	任命式・事前学習会①
	8月 4日(日)	事前学習会②(ちようふピース部との交流)
	6日(火) ~12日(月)	調布市平和展で紹介パネル展示
	6日(火)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(広島原爆の日)
	9日(金)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(長崎原爆の日)
	15日(木)	防災行政無線での黙とう呼びかけ(終戦記念日)
	8日(木) ~10日(土)	長崎派遣 平和関連施設見学/ピースフォーラムへの参加/折り鶴献納
	19日(月)	事後学習会①(オンライン)
	9月 1日(日)	事後学習会②(台風接近のため, 中止)
	10月 6日(日)	事後学習会③
	11月 8日(金)	平和祈念祭にてメッセージボードや活動パネルの展示
	10日(日)	事後学習会④
	12月 3日(火) ~6日(金)	ピースメッセンジャー2024・ピースメッセンジャージュニア 2024活動報告展示 @文化会館たづくり1階 エントランス
	8日(日)	ピースメッセンジャー2024活動報告会 @文化会館たづくり1階 エントランスステージ
令和7年	1月 16日(木)	第12回平和首長会議国内加盟都市会議総会にて ピースメッセンジャー2024・ピースメッセンジャージュニア 2024活動報告展示 @武蔵野市民文化会館
	3月 4日(火) ~12日(水)	ピースメッセンジャー2024・ピースメッセンジャージュニア 2024活動報告展示 @文化会館たづくり11階 みんなの広場
	20日(木)	ちようふピース部との交流会

Part1【学び】

市民の代表「ピースメッセンジャー」
として、様々なことを見て、聞いて
【学び】ました。

任命式

日時：令和6年6月30日（日）
午前9時50分～10時20分
場所：教育会館301・302・303

ピースメッセンジャージュニアと合同で実施しました。
長友市長からピースメッセンジャーへ、調布市の代表としての心構えや平和学習への期待などの話とともに任命書を交付しました。

また、FC東京コミュニティジェネレーターの石川直宏様と
(株)渋谷不動産エージェント代表取締役の渋谷利宏様から激励のメッセージをいただきました。

※ピースメッセンジャージュニアについては40ページ～



事前学習会①

日時：令和6年6月30日（日）
午前11時20分～午後2時30分
場所：教育会館301・302・303

NPO法人ちょうふ子どもネット協力のもと、「ピースメッセンジャーとしてどうなりたいか」を考えるワークショップを行いました。画用紙に絵を描き、自分を表現する練習をしました。また、ピースメッセンジャーとしての意気込みや平和への想いを伝えるための「メッセージボード」の作成に取り組みました。一人ひとりの考えや気持ちを自由に表現しました。



事前学習会②(ちょうふピース部との交流)

日時：令和6年8月4日(日)

午前10時00分～午後1時

場所：文化会館たづくり1001学習室

過去にピースメッセンジャーに任命され、活動している先輩ピースメッセンジャーである「ちょうふピース部」との学習会や意見交換会など交流をしました。

※ちょうふピース部については62ページ～



長崎平和派遣 行程表

8月8日(木)調布駅に集合し、長崎へ向け出発しました。
現地では、戦争関連施設の見学や平和活動団体との交流
等を通して、戦争・平和について学びました。



令和6年 8月8日(木)

青少年ピースフォーラム参加

被爆者講話
フィールドワーク
交流会

1
目
目



令和6年 8月9日(金)

長崎歴史文化博物館見学
長崎犠牲者慰霊平和祈念式典参列
青少年ピースフォーラム意見交換会
参加
長崎原爆資料館見学

2
目
目



令和6年 8月10(土)

平和公園で折り鶴の献納
平和案内人によるガイド
平和公園, 如己堂, 永井隆記念館,
浦上天主堂, 原爆落下中心地

3
目
目

長崎平和派遣 1日目

令和6年8月8日(木)

青少年ピースフォーラム/フィールドワーク/交流会



長崎到着



被爆者講話

松尾幸子さん(被爆当時11歳)
爆心地から1.3km離れた場所で
被爆しました。
ピースメッセンジャーは松尾さんの
貴重な講話に耳を傾け、戦争の計
り知れないほどの悲惨さについて
考えました。

青少年ピースフォーラムにて被爆者講話の拝聴



青少年ピースフォーラム

毎年8月8日,9日の2日間にわたって
開催され,フィールドワークや意見交換
会等の平和学習を長崎の青少年ピー
スボランティアが企画・運営しています。
ピースメッセンジャーは,平和学習に加
え,各自治体から派遣された青少年と
の交流もしました。

ピースボランティアによる戦争被害の説明



フィールドワーク(長崎大学坂本キャンパス)

フィールドワーク

ピースボランティアの方に被爆当時の様子や戦争の被害を受けた建物について説明していただきました。



フィールドワーク(山王神社)



交流会

全国の自治体から参加している青少年と交流をしました。

長崎平和派遣 2日目

令和6年8月9日(金)

長崎歴史文化博物館/長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典/ 青少年ピースフォーラム/長崎原爆資料館見学



日本や中国, オランダなど
様々な国の文化が入り混
じった和華蘭文化につい
て学び, 国際交流の大切
さを肌で感じました。

長崎歴史文化博物館の見学



長崎原爆犠牲者慰霊 平和祈念式典への参列

原爆犠牲者の冥福を祈り, 核兵
器廃絶と恒久平和の実現を世
界に祈るため, 開催されました。
ピースメッセンジャーは, 調布市
の代表としてサテライト会場
である出島メッセ長崎で式典に参
列しました。



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

青少年ピースフォーラム

各グループに分かれて「ケンカ・戦争はなぜなくならないのか」「ケンカや戦争をなくすために、どうしたらいいか」を話し合いました。グループワークの後「今の私にできること」を一人一人が考え、「my平和宣言」として色紙に書きました。



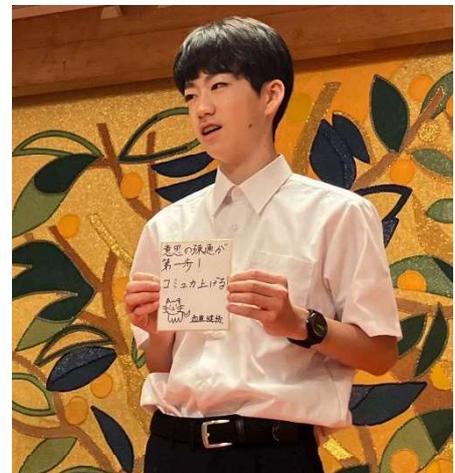
青少年ピースフォーラム(意見交換会への参加)



長崎原爆資料館

被爆資料や被爆の惨状を示す写真などの展示をはじめ、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などの展示を行っています。

長崎原爆資料館見学



ミーティング

長崎平和派遣 3日目

令和6年8月10日(土)

平和公園に折り鶴献納/平和案内人によるガイド



平和公園に折り鶴献納

折り鶴の献納

市内の中学校や市民の方に御協力いただきました折り鶴を千羽鶴にし、ピースメッセンジャーが平和公園へ献納しました。



平和案内人によるガイド

平和案内人の方に戦跡をご案内していただきました。
平和公園→如己堂→永井隆記念館
→浦上天主堂→原爆落下中心地

平和案内人によるガイド

事後学習会

日時・場所：

- ①令和6年8月19日（月）午前10時～11時
オンライン
- ②令和6年9月1日（日）（台風接近のため、中止）
- ③令和6年10月6日（日）午前10時～正午
文化会館たづくり1102学習室
- ④令和6年11月10日（日）午前9時～正午
文化会館たづくり1001学習室

ピースメッセンジャーとして平和への想いを発信していくため、オンラインで、長崎派遣を振り返り、学んだことや感じたことをお互いに発表しました。

その後、12月の報告会へ向け、多くの人へ平和への想いを伝えるための準備やメッセージボードの作成をしました。

最後の学習会では、12月の報告会へ向け、一人一人が作成した原稿の読み合わせや、本番と同じ動きでリハーサルを行いました。



Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。

活動報告

日時：令和6年12月8日（日）午前9時～10時
場所：文化会館たづくり1階エントランスステージ

ピースメッセンジャーがこれまでの学習会や派遣で学んだことを市長、教育長をはじめ、広く市民に向けて発表する報告会を実施しました。

調布市文化会館たづくり1階エントランスホールで実施し多くの方にご出席いただきました。



活動報告の内容

※活動報告全体から抜粋

任命式・事前学習会

晃華学園中学校3年の岡本華奈です。

私からは派遣前の活動についてお話しします。

私たちは令和6年度のピースメッセンジャーとして6月30日に任命されました。任命式に行くまでの間、これからの活動に期待し、高揚感に満ちていたのを覚えています。

任命式では、調布市長から正式な任命とこれからの活動を激励していただきました。そして、私たちはそれぞれの意気込みを口にし、やる気が高まりました。第1回事前学習会に移るまでの間、みんな緊張しながらもコミュニケーションをとり、友好を深めました。

事前学習会では、簡単なゲームを通して自分を表現したり自分の価値観を知りました。人と違う価値観は認めることが大切だと学びました。そして、派遣前の自分の気持ちや考えをメッセージボードに書き出し、やる気の高まった1日となりました。

(岡本華奈)

長崎派遣1日目

第七中学校三年の温井です。

私から現地活動一日目についてお話しします。

一日目のはじめは被爆を体験された松尾幸子さんの講話を聞きました。松尾さんは何十年も前の一瞬の出来事をはっきりと覚えていらっしゃいました。松尾さんのお話はとてもリアルに感じ、実際に自分がその場面を見ていたかのようなようでした。この話を聞いて私はこのような経験は絶対にしたくないと感じました。

今後このような体験をしない、させないためにも今現在、存在する国際問題の早急な解決が必要だと考えました。

松尾さんの講話を聞いた後はフィールドワークを行い原爆の恐ろしさを現存する建物などを見学して学びました。私が最も驚いたのは旧長崎医科大学の正門門柱を見たときで、大きく重い門柱が原爆の爆風によって移動したと聞いた時は理解が追いつきませんでした。理解が追いついてくると原爆の恐ろしさを実感し、このような兵器は二度と使われてはいけないのだと感じました。

フィールドワークの後は他県の方たちとの交流会に参加しました。初めはみんな緊張していましたが、会が進むにつれて仲良くなることができました。二日目のピースフォーラムに向けてもいい関係を築くことができました。

(温井彪斗)

長崎派遣2日目

1つ目は、平和祈念式典に参加したことです。式典に参加することは初めてだったので緊張したけれど、献花を行ったり平和への誓いを生で聞いたりと貴重な体験ばかりでした。

絶対に忘れてはいけない日、それが8月9日という大切さを改めて式典で感じる事ができ、良い経験になりました。

2つ目は、青少年ピースフォーラムに参加したことです。ここでは、いろいろな自治体のピースメッセンジャーと交流したりMy平和宣言を作成したりしました。交流ではテーマに合わせて自分の考えを付箋に書き発表しました。そのため新しい発見がたくさんできました。My平和宣言作成では自分の思いを皆に伝えられてよかったです。

いろいろな人と自分の考えを交換することで新しい発見ができるということをピースフォーラムで学びました。

3日目は、長崎原爆資料館を見学したことです。原爆資料館では、浦上天主堂の惨状を表す実物や、原爆による人体への被害の写真などが展示されていて、どれも迫力があり圧倒されました。一番記憶に残っているのは、核兵器の模型です。あまりの大きさに見た瞬間言葉が出ませんでした。現代の技術で核兵器を造り、投下された場合、「日本が吹き飛ぶのではないか。」と考えるだけで怖くなります。

二度とそのようなことが起こらないように核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを長崎原爆資料館で感じました。

(鈴木恋彩)

長崎派遣3日目

調布市立神代中学校の及川響大です。

私から、三日目の体験内容についてお話します。

折り鶴献納では、調布市内の様々な方々がおってくださった鶴を二日目の夜にみんなで考えた言葉と一緒に他の地域の方々がかけたたくさんの方々の千羽鶴の中に献納しました。そして黙祷を捧げ、被爆された方の御冥福を祈るとともに、平和をどう守っていくか考えました。

フィールドワークでは如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂、原爆中心地、平和公園、爆心地公園を回りました。その中でも浦上天主堂と爆心地公園が印象に残っています。

爆心地公園では、原爆落下中心碑、被爆当時の地層、下の川を見ました。原爆落下中心碑は悲しみの原点(グラウンド・ゼロ)の象徴となっています。原爆落下中心碑の前で、被爆者の方々の御冥福を祈りました。被爆当時の地層の中には壊された家の瓦やレンガの他、原子爆弾による3000度にも及ぶ熱線によって溶けたガラス片が大量に埋没していました。また、下の川は原子爆弾が投下された当時は、おびただしい死体で埋まっていたようで、まるでこの世の生き地獄であるかのような光景だったそうです。現在の護岸には被爆当時の石が用いられています。平和案内人の方からこのお話を聞き、自分の想像以上の悲惨さに恐ろしさを感じました。

浦上天主堂は大正3年に天主堂、大正14年に双塔を完成させ、東洋の壮大さを誇りました。しかし、原爆によりわずかな堂壁を残して崩れ落ちてしまいました。

平和記念公園には聖堂の南側の堂壁の一部を移築したものがあり、原爆による石柱のずれに注目して見ました。また、双塔の一番上の重さ約50トンもあった鐘楼ドームも原子爆弾による爆風で南側のもが天主堂内に落下し、北側のものは天主堂北側のがけ下を流れる小川まで滑落しました。このドームは、アンジェラスの鐘のドームで、このドームの中にあつたアンジェラスの鐘も一緒に崩れ去りましたが、2つあつたアンジェラスの鐘は片方だけ残っていて、片方は現在でも時を告げています。重さ50トンもあるドームを落下させたことを知り、原子爆弾の威力の大きさや恐ろしさを感じさせられました。

実際に原子爆弾が投下された長崎の地面を歩いて、被害をこの目で見たことで、まるで当時のその場所にいるかのような気持ちで学ぶことができました。戦争がおこってしまうのは双方に主張があるからかもしれませんが、こうなる前にどうしてそれを防ぐことができなかつたのだろうかと深く考えさせられました。

今回のフィールドワークで、戦争や原子爆弾について、そして何より平和についての自分の考え、理解を深めることができたと思います。このように私の考えが変わったのは、実際の現物を見たからであると考えます。過去にあった嫌な歴史に対面すると、どうしても目をつむりたくなるかもしれませんが、それではまたいつかこの惨劇を繰り返すことになるでしょう。だから、核廃絶の考えを風化させないために、この遺跡を未来の世代にも受け継いでいきたいと思います。そして私は、フィールドワークで学んだことを、学校の友達や先生と話し合い、平和に対する関心や興味を少しでも持ってもらい、現地に足を運んでもらえるようにしたいです。

以上で、三日目の体験内容についての発表を終わります。

(及川響大)

ここまでの活動を通して

調布市立第四中学校の遠藤葉月です。

長崎平和派遣の3日間を通し私は改めて平和の大切さを肌で感じる事が出来ました。

山王神社二の鳥居や浦上天主堂, 原爆資料館, 移動の際に歩いた道さえも当時ここで誰か亡くなっていたと考えるととても感慨深かったです。

一人じゃ怖かったけど, 仲間と一緒に原爆資料館も行くことが出来ました。

今なお, ロシアとウクライナの戦争や, パレスチナの問題やいつ核兵器が使われてもおかしくない状況になっています。私たち一人一人の力は微力かもしれませんが長崎を最後の被爆地にしなければということ, 日本だけでなく世界に伝えていかなければと改めて感じました。

写真やテレビで見ることも大切ですがやはり自分の目で, 耳で, 肌で, 感じる事が大切だと思いました。被爆者の方が高齢化を迎えており, 体験したお話を聞く事が出来たのは本当に貴重な体験でした。

最後に, 今の学校では戦争のことだけをフォーカスして話すことはあまりありません。せめて広島に原爆が落とされた日, 長崎に原爆が落とされた日, 終戦記念日だけは覚えてほしいです。

(遠藤葉月)

活動報告展示

ピースメッセンジャーとピースメッセンジャージュニアの平和への思いが込められたメッセージボードや活動パネルを、イベントや市内公共施設等で展示しました。

令和6年11月8日(金)

平和祈念祭



令和6年12月3日(火)~6日(金)

文化会館たづくり1階
エントランス



令和7年1月16日(木)

第12回平和首長会議 国内加盟都市会議総会



1月16日(木)に武蔵野市民文化会館で実施されました「第12回平和首長会議国内加盟都市総会」にて、メッセージボードや活動パネルを展示しました。加盟都市の首長をはじめ、市内外の多くの方に、ご覧いただきました。

令和7年3月4日(火)~12日(水)

文化会館たづくり11階
みんなの広場



平和祈念事業

調布市は、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ちようふピースメッセンジャー2024も平和祈念事業
へ参加しました。

黙とうの呼びかけ

8月6日（広島原爆の日）、9日（長崎原爆の日）、15日（終戦記念日）、3月10日（東京都平和の日）に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。

令和6年度は、ピースメッセンジャー2024が黙とうの呼びかけを行いました。



第 3 部

ピースメッセンジャー ジュニアの取組

FC東京との連携により市内在住又は
在学の小学生を“ピースメッセンジャー
ジュニア”として任命し、平和学習を行
いました。

ちょうふピースメッセンジャージュニア2024

紹介

市内在住又は在学の小学生10人が“ちょうふピースメッセンジャージュニア2024”として活動しました。



揚原 明	(あげはら あきら)	調布市立柏野小学校(5年)
岡本 華	(おかもと はな)	調布市立滝坂小学校(6年)
小川 智己	(おがわ ともし)	調布市立多摩川小学校(6年)
鍛冶屋 雫	(かじや しずく)	調布市立国領小学校(5年)
鴨志田 雪花	(かもしだ ゆきか)	調布市立上ノ原小学校(5年)
川名 浩生	(かわな こうき)	調布市立第一小学校(6年)
田口 華	(たぐち はな)	調布市立北ノ台小学校(5年)
中島 來音	(なかじま らいと)	調布市立第三小学校(6年)
伴 英里南	(ばん えりな)	調布市立八雲台小学校(5年)
三浦 志月	(みうら しづき)	調布市立杉森小学校(5年)

本事業は調布市・FC東京・(株)渋谷不動産エージェントの連携により実施しました。

ピースメッセンジャージュニアの活動

FC東京と連携し、市内の小学生10人を“ピースメッセンジャージュニア”として任命し、FC東京の試合観戦と戦争・平和に関する学習を行いました。ピースメッセンジャージュニアが作成したメッセージボードの展示や、報告会を通して、学んだことや平和への想いを発信しました。

任命式



「ちょうふピースメッセンジャー2024」と合同で任命式を実施し、FC東京コミュニティジェネレーターの石川直宏様から任命書が交付されました。

都内戦争関連施設の見学(しょうけい館)

令和6年8月31日から9月1日まで予定していた広島派遣は台風10号の影響により中止となりましたが、その代わりに2日間に分かれて都内にある戦争関連施設を見学しました。

■しょうけい館(九段下)

しょうけい館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな苦勞についての証言や資料を展示している資料館です。



しょうけい館では語り部の方による講話を聴講しました。11月23日は「沖縄戦で負傷した少女」について、24日は「ハンセン病を患い、戦後も隔離生活を送り続けた方」について、お話していただきました。



秋の企画展「青年 武良茂と戦争」が開催されており、漫画家として有名な水木しげる氏が兵士として体験した軍隊生活や激戦地で負った怪我や患った病気について、作品や個人資料、映像で展示されていました。ピースメッセンジャージュニアたちは、親しみのある水木しげる氏の作品や資料から、戦争の恐ろしさや、戦後に体験された苦勞について学びました。

都内戦争関連施設の見学（平和祈念展示資料館）

■ 平和祈念展示資料館（新宿）

平和祈念展示資料館は戦争が終わってからも苦しくつらい体験をされた兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の苦労に関する実物資料、グラフィック、映像、ジオラマなどを展示する施設です。



出征する兵士の様子を再現したジオラマや、過酷な労働や貧しい食事に耐えた収容所での生活の様子を再現したジオラマなどが展示されていました。

ピースメッセンジャージュニアたちは、解説員の方に展示物を案内していただきながら見学しました。

報告会の実施

「FC東京第4回青赤ストリート」の会場内ステージで、これまでの活動の報告を行いました。また、学習した内容や感じたことをまとめたメッセージボードも会場内に展示しました。発表後はFC東京対セレッソ大阪の試合を観戦し、3-0でFC東京が勝利しました。



ピースメッセンジャージュニアの

感想文

ピースメッセンジャージュニア一人ひとり
の「感想文」と平和への想いをまとめた
「メッセージボード」を紹介します。

ピースメッセンジャージュニアが作成した原文のまま掲載しています。

Chubu Peace Messenger

令和6年度 調布市平和記念事業

ちようふ

ピースメッセンジャージュニア 2024

〈見学して分かったこと〉

- ・しょうけい館
一番印象に残ったのは、ハンセン病にかかった立花 誠一郎さんが差別されたという話です。今なら、病院で診せつてもらえるのに、かくりテントで一人ぼっちにされた立花さんは きっと悲しく、さみしく、怖かったんだろうなと思いました。また、当時、ハンセン病は 伝染病とされ、ものすごくこわがられていたということが分かりました。
- ・平和記念館
展示してあった軍用品がすごく重くて(30kg)びっくりしました。とてもあのリュックを背負って歩けないなと思いました。また、説明を聞いて3つの苦さ(兵士、よく留、引揚げ)の苦さを辛さが伝わってきました。

〈平和への思い〉

この学習を通して戦争の苦しさ、原爆のおそろしさを覚えることができました。なので、この苦しさを友達や家族に伝え、この世界に二度と原爆が落ちないようにしたいです。



感じたこと、伝えたいこと

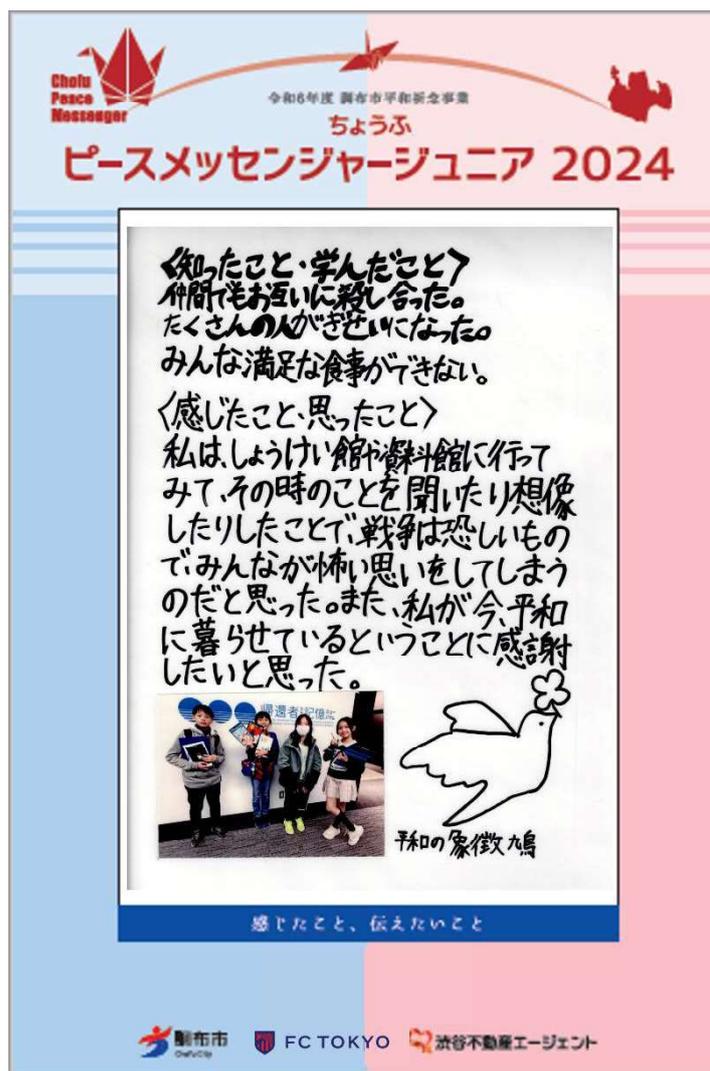
調布市 Chubu City FC TOKYO 渋谷不動産エージェンツ

「平和への思い」

僕は調布市からピースメッセンジャージュニアに任命され、広島に派遣されることになりました。調布市の他の学校の小学生と平和を学習する予定でした。出発前に佐須図書館に行き、広島の前爆についてお母さんと調べました。原爆の仕組みや、ひがいを受けた建物について知り、原爆のいりよくに驚きました。残念ながら、台風の影響で広島派遣は中止になってしまいました。その代わりに、調布市役所の人と都内戦争施設見学をしました。しょうけい館では、「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげるさんの展示があり水木さんの戦争体験を知りました。兵隊だった水木さんは、ラッパ吹き係で、少しでも失敗すると、炎天下の中を走らされました。失敗を許さない当時の軍隊はきびしすぎだと思います。平和祈念展示資料館では、戦後の苦しさについて学びました。すごく苦しい戦争が終わっても、苦しさは続きます。うえとの戦いです。食べものがなく、死んでしまう人がたくさんいました。死ぬよりましだと、虫や雑草を食べる人もいたそうです。死ななくて良かった人が亡くなってしまいました。

僕はこの活動に参加できて良かったです。この学習を通して学んだことを、友達や家族に伝え、この世界に二度と原爆が落ちないようにしたいです。

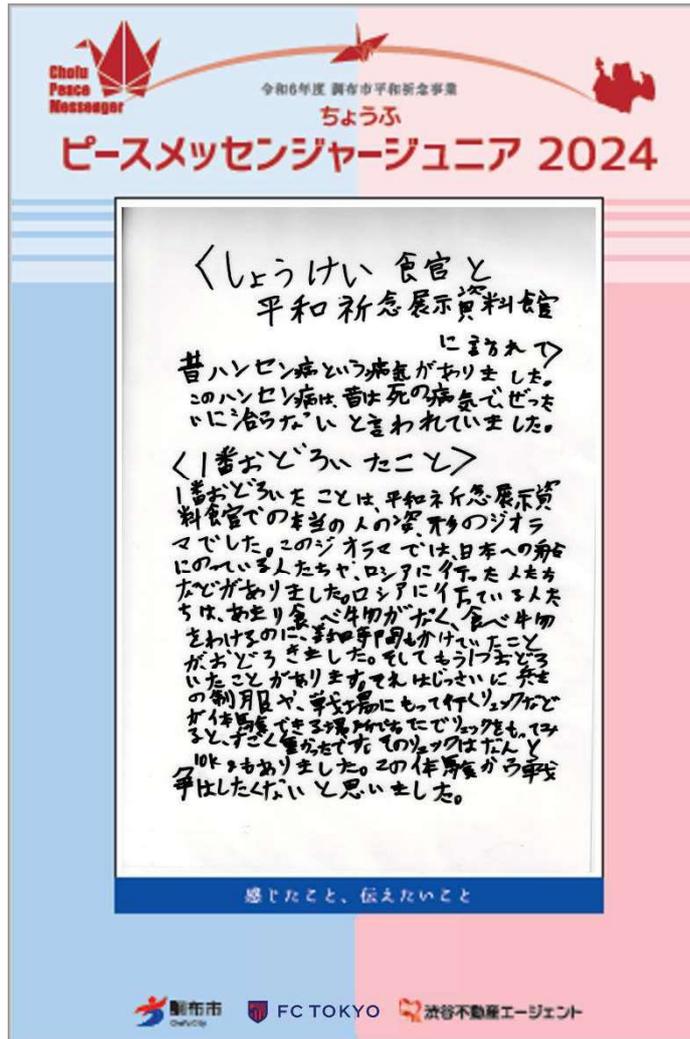
調布市立柏野小学校（5年）
揚原 明



「平和の尊さ」

私がこの活動で学んだことは戦争が恐ろしいもので、してはいけないことだということです。野戦病院の様子を描いたジオラマでは血だらけで手当てされている人がいたり、黒パンを切り分けているジオラマでは、みんなのパンを均等になるように、みんながそれを真剣に見ている様子がありました。これを見て、私は戦争は人をけがさせたり殺してしまったりするし、満足な食事もできなくなるので怖いものだと思います。また、広島に行くことはできなかったけれど、自由研究で広島のことについて調べてみました。その中で一番印象に残ったことは放射線障害です。なぜなら、髪が抜けたり、吐き気がしたり、脱水症状が出たりするからです。この活動で戦争の恐ろしさや怖さなどを知り、改めて、平和の尊さに気づかされました。これからも人々に伝えていきたいと思いました。

調布市立滝坂小学校（6年）
岡本 華



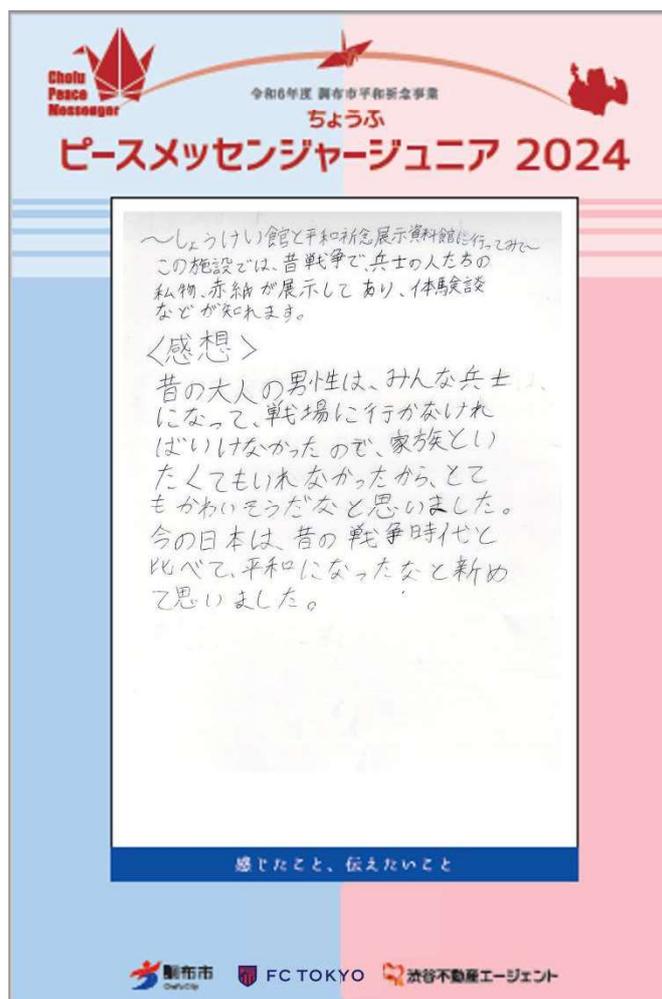
「戦争についてぼくが感じたこと」

ぼくはピースメッセンジャージュニアになって、広島に行けるとやったーと思いました。けど広島に行く日、ちょうど台風で新幹線が運転見合わせになって中止となり、とてもがっかりしました。ですが、それから約2ヶ月後、広島ではないけれどしょうけい館と平和祈念資料館に行って、ぼくはハンセン病という病気や、実際に戦争に持って行ったリュックなどを、見たり聞いたりさわったり持ったり、ほんの少しだけ体験する事ができました。リュックは10kgもの重さがありました。

また戦争で苦しかった時期は、麻すいなしでうでを切だんしたりする手術をしていました。そしてハンセン病とは、昔は死の病と言われて、戦地でハンセン病にかかると悪者あつかいされていてショックでした。平和祈念資料館では、実物にとっても似ている戦時中の当時の人のジオラマがありました。それを見てみるとなんだかぞわっとしました。でもこれが本当にあった事実であり現実なんだなと受けとめ、ちょっとこわくなりました。だから、戦争はやりたくないと思いました。

ぼくの友達や未来に生きる仲間のためにも、戦いではなく平和をめざして、世界のかきねをこえて、国境を越えてみんなが幸せな世の中をつくる、つくり手になれるとうれしいです。これがぼくがピースメッセンジャーとして参加し、体験し感じた感想です。ありがとうございました。

調布市立多摩川小学校（6年）
小川 智己



「ピースメッセンジャーを通して思った事」

私がこの活動を通して思った事は、戦争は悲しい事や苦しい事しか無かったという事です。

戦争関連施設に見学に行った時、体験談を聞きました。とても苦しい暮らしをしていた事や、食べる物もなく亡くなってしまう人も居たと聞きました。自分ではとても考えられない事だと思いました。

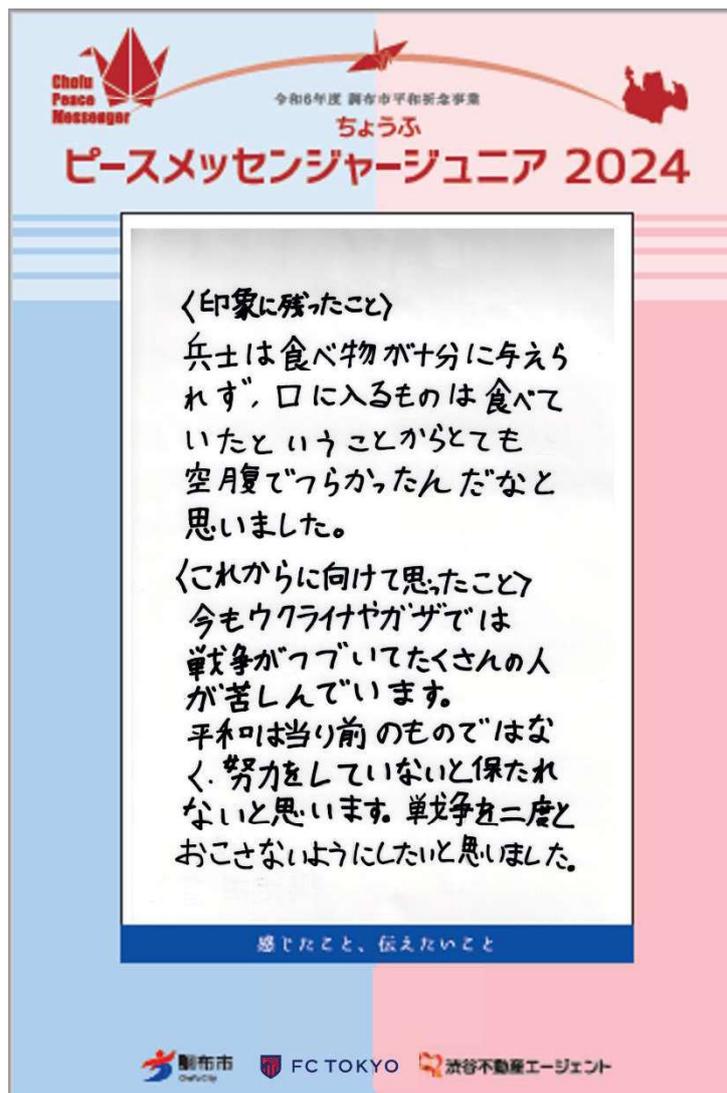
改めて、平和は当たり前的事ではなく、自分達で守って行かなければ維持できない物だと分かりました。

どんな事が有ろうと、戦争は起こしてはならない物であると強く思いました。これからもこう言った資料は、のこし伝えていかなければならないと、見学するに当たり教えられているようでした。

こんな事をもう二度と起こしてはいけないし、皆が苦しい思いをしなくて良い様に守って行く事が平和への途だと分かりました。

調布市立国領小学校（5年）

鍛治屋 雫



「活動を通して」

ピースメッセンジャージュニアでの活動を通して感じたことが三つあります。

一つ目は、戦争の展示を見て、こんなに大変だったのだなと思ったことです。平和祈念展示資料館の体験コーナーで実際にリュックを持ってみるととても重くて10kgもありました。兵士さんがそのリュックを持ち一日中歩いていたのはどれほどつらかっただろうと思いました。

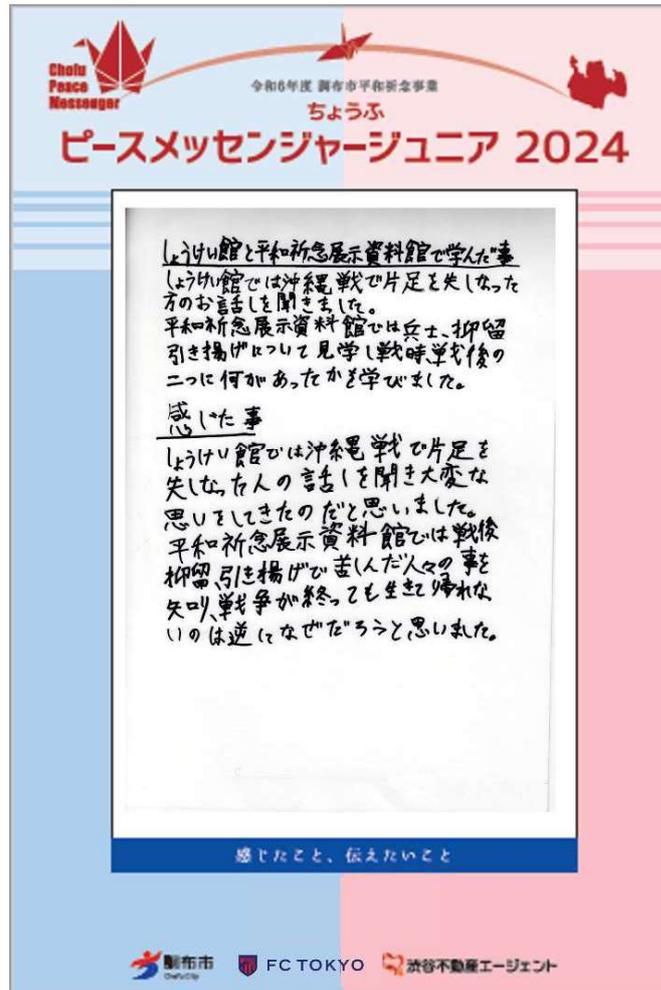
二つ目は、サッカー観戦が楽しかったことです。寒かったけれど点が増えていく度にわくわくして新しくできた友達と盛り上がる事ができて面白かったです。

三つ目は、この活動で友だちが増えてうれしかったことです。ふだん中々関われない他校の子たちと一緒にサッカー観戦をしたり、平和学習をしたりして思い出をつくる事ができました。

貴重な体験ができたことに感しゃしています。

調布市立上ノ原小学校（5年）

鴨志田 雪花



「しょうけい館と平和祈念展示資料館で学んだ事」

しょうけい館では沖縄戦で片足を失った方のお話を聞きました。

平和祈念展示資料館では兵士抑留、引揚について見学し、戦時、戦後の二つに何があったのかを学びました。

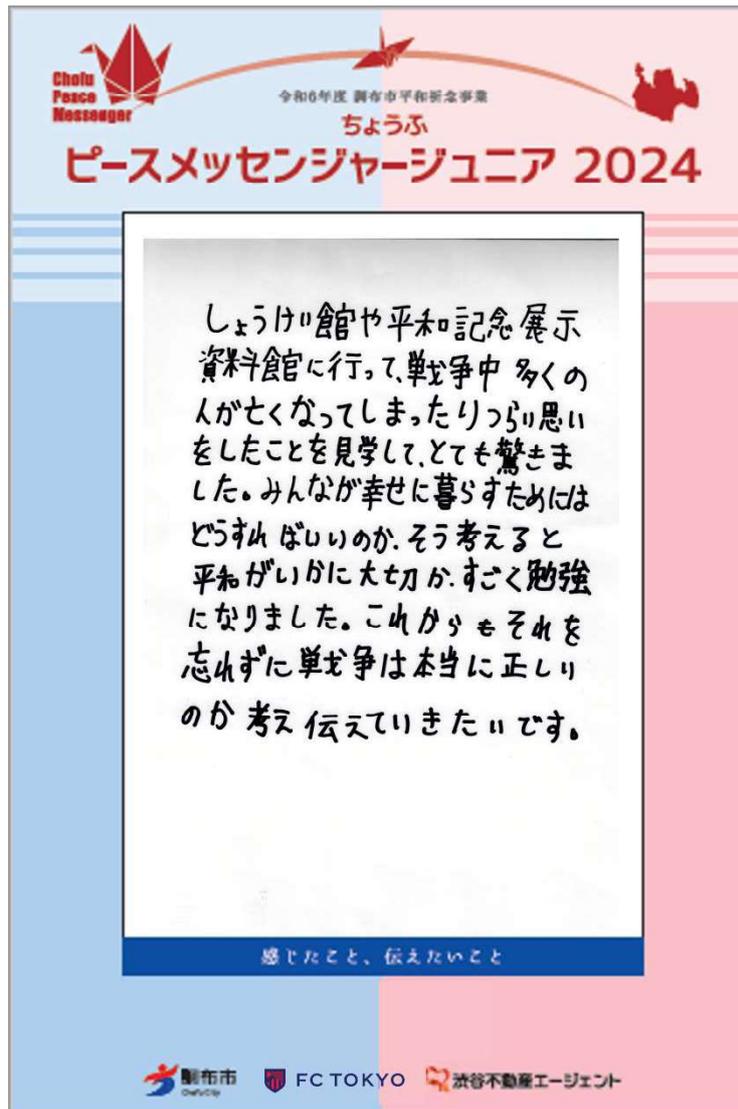
「感じた事」

しょうけい館では沖縄戦で片足を失った人の話を聞き、大変な思いをしてきたのだと思いました。

平和祈念展示資料館では戦後抑留、引揚で苦しんだ人々の事を知り、戦争が終わっても生きて帰れないのはなぜだろうと思いました。

調布市立第一小学校（6年）

川名 浩生



「ピースメッセンジャーを終えて」

わたしは十一月二十四日、日曜日に都内にあるしょうけい館と平和祈念展示資料館に行きました。そこで多くの戦争や平和についての資料を見て学びました。私の中で特に印象に残ったことは、兵士さんの食糧が足りていなかったことです。敵との戦いの他に飢えとも戦わなければならなかったことに驚きました。みんながこの苦しみを経験することがないようにするにはどうしたらいいか考えながら見て回りました。

他のピースメッセンジャージュニアのメンバーと一緒に、見学・発表をしたことで相手と意見を交換してお互いの考えをより深めることができました。特に自分とちがう視点で見ることができたのですごく勉強になりました。これからも調布ピースメッセンジャージュニアとして、戦争や平和のことをより多く知り、考え続けて後世にその考えを伝えていきたいです。

調布市立北ノ台小学校（5年）
田口 華



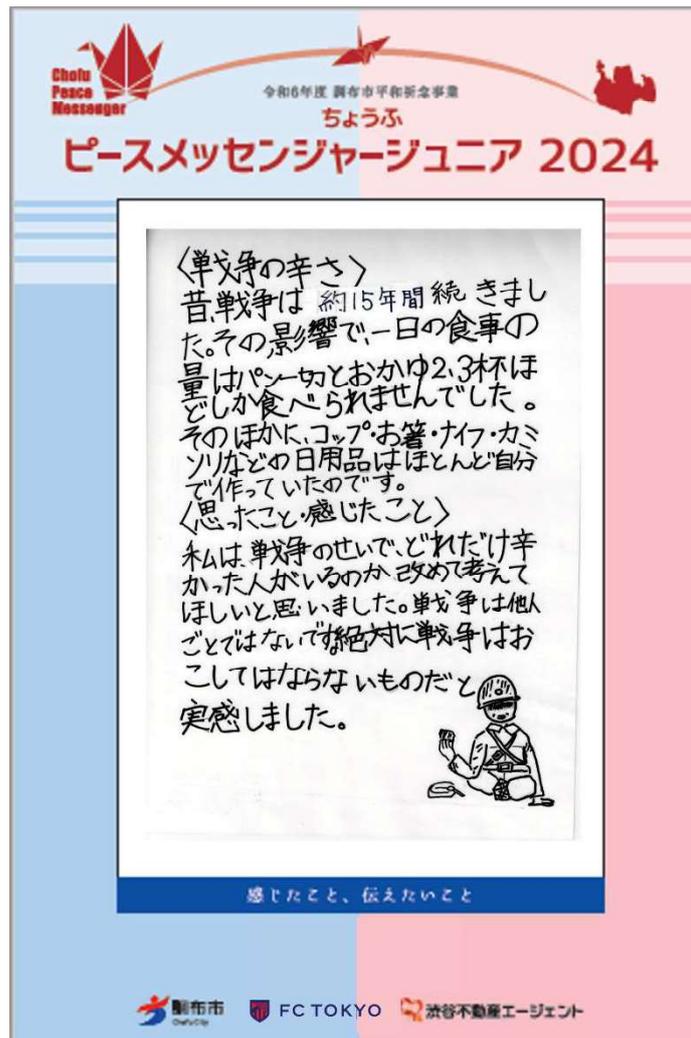
今回、ピースメッセンジャージュニアに選ばれてすごくうれしかったです。
他のメンバーと戦争施設を見学したりして戦争や平和について学べればいいな
と思いました。

また、ピースエディオンスタジアムで大好きなFC東京戦を見れるのもすごく楽し
みでした。

残念ながら台風で広島行きは中止になってしまいましたが戦争や平和につい
て自分なりに理解していこうと思います。

また、FC東京の応援も頑張ります。

調布市立第三小学校（6年）
中島 来音

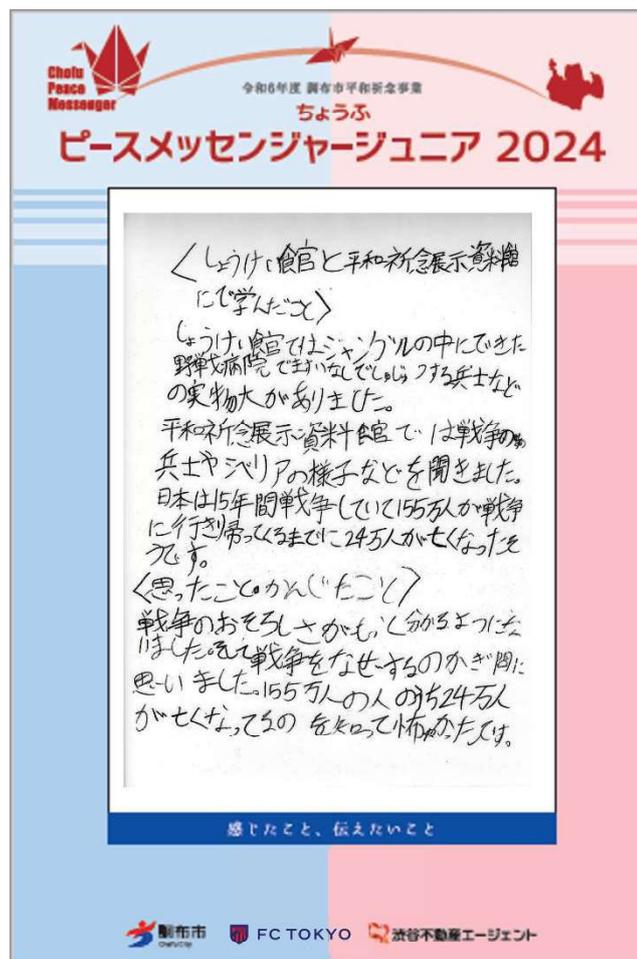


「戦時中の食生活」

私は、ピースメッセンジャーで、戦争がどれだけつらい事なのか、どれだけ大変だったのかを学びました。その中でも一番印象に残ったのは、戦争時の食事についてです。

今はみんなお腹がいっぱいになるまで食べられますよね。でも戦争中の兵隊さん達は、およそ飯一膳ほどしか食べられなかったのです。だからご飯が足りなくて、空腹のあまり餓死してしまう人もいました。二百三十万人のうちおよそ二十万人～百四十万人の兵隊さんが一回の戦争で亡くなりました。野ネズミやヘビやコウモリまで食べるという悲惨な状況でした。私はとても衝撃を受けました。そこから、戦争は絶対に起こしてはならない事だと実感しました。平和であることと、たくさん食べられることに感謝と幸せを感じています。

調布市立八雲台小学校（5年）
 伴 英里南



「戦争がない平和な世界へ」

8月31日と9月1日の1泊2日で広島へ行く予定でしたが、台風で行けなくなってしまい悲しかったです。でも11月に、しょうけい館と平和祈念展示資料館に行き、戦争について学びました。戦争について説明してくれた人の話を聞いて、戦争は残酷だと思いました。戦争で負傷した人が使う義足や義手などがありました。戦争の時の兵士の動く模型があり、すごくリアルで怖く感じました。兵隊さんの着る服がすごく重かったです。こんな重い服を着て戦うのは大変だと思いました。戦争に関するクイズがあったり、日本が終戦した日などいろいろ知ることができました。そして、今も戦争をしている国があるので心配です。1日も早く終わってほしいです。12月8日、FC東京の試合前に発表会はとても緊張しました。言葉をハキハキと、そしてゆっくり聞き取りやすくしゃべることを意識しました。その後のFC東京の試合では、FC東京のユニフォームを着てタオルマフラーを持って、みんなで応援しました。3対0と快勝してとても嬉しかったです。

調布市立杉森小学校（5年）
三浦 志月

第4部

自主活動

ピースメッセンジャーは、学校での発表や個人
の活動として積極的に【発信】しています。

【ピースメッセンジャー2024】

田崎 千鈴
遠藤 葉月
西須 健吾
岡本 華奈

ピースメッセンジャー2024

田崎 千鈴

ピースメッセンジャーとして長崎派遣で学んだことを
ファイルにまとめ、発信しました。



ピースメッセンジャー2024

田崎 千鈴 ・ 遠藤 葉月

学校だよりに、第四中学校の二人のインタビュー記事が掲載されました。

ピースメッセンジャーのお二人に突撃インタビュー!(一部抜粋)

★調布市令和6年度中学生長崎平和派遣事業ピースメッセンジャー★

1年4組 田崎 千鈴 さん

「各地から集まった同年代の人たちとの交流は、平和の尊さを考える機会となった。お互いの意見を尊重し、対話で問題を解決する道を選び、探していきたいと思う。」

2年3組 遠藤 葉月 さん

「爆風の被害など自分の肌で感じる事ができた。被爆者の方が高齢で今後お話を聞く機会が減るので、貴重だった。もっと戦争のことを知ってほしい。」 (「学校だより四つ葉」より)

ピースメッセンジャー2024

西須 健悟

第六中学校2年の西須健悟さんが学年集会の場で、派遣を通して学んだことや、考えたことについて発表しました。

二年一組の西須健悟です。私は今年の8月8日から10日にかけて、調布ピースメッセンジャーとして被爆地である長崎を訪れました。この発表ではピースメッセンジャーとは何なのか、現地で行った活動、そして私の意見についてお話させていただければと思っております。

そもそもいきなり「私はピースメッセンジャーです」と言われてもよくわからない方もいると思うので、まずピースメッセンジャーとはなにか説明しますね。ピースメッセンジャーをまとめる調布市には中学生平和派遣事業というプロジェクトがあって、毎年被爆地に派遣する中学生を十数人募集しているんです。この事業は市が、活動のスケジュールや資金を用意して、募集に受かった中学生が、戦争と平和について学びに行く、簡単に言うと市が行っている修学旅行のようなものです。

とはいっても、私たちピースメッセンジャーはただ旅行をしに長崎に行ったわけではありません。何のために活動しているのかというと、使命が大きく2つあります。一つは戦争の悲惨さや平和の尊さについて学ぶこと。もう一つは活動の成果をいかすことです。私が今こうした形で発表しているものも成果をいかす活動の一環です。

皆さん今まで平和についてじっくり考えたことありますか？平和派遣事業を知った時、私はほとんど考えたことがなかったので、理解を深めるために行くしかない、と思いました。こういった目的をもった私たちピースメッセンジャーはこの一年で応募するための作文から始まり、事前学習会、長崎への派遣、活動内容の発表など様々な活動を行いました。ここからはその中のメインである長崎派遣時の体験についてクローズアップしてお話します。

僕が長崎に訪れた実感として一番記憶に残っているのは、現地でのフィールドワークです。訪れた場所をいくつか撮った写真を交えて紹介します。

これは爆心地から南東800メートルのところにある山王神社で、左は、神社の鳥居の写真です。昔は4つあった鳥居ですが、1945年8月9日午前11時2分に投下された原子爆弾による爆風で吹き飛んでしまい、現在は二の鳥居の左半分しか残っていません。境内には、被爆した2本のクスノキがありました。右側がその写真です。

続いて被爆地から南東600メートルほどの場所にある旧・長崎医科大学では、被爆した配電室と、正門門柱を見学しました。左の写真の配電室では被爆した当時の設備がそのまま残っている感じが感じられました。右の写真の正門門柱は、爆風で今も傾いたままになっている姿が見られます。カトリック教会である浦上天主堂は爆心から北東500メートルにあった古くからキリスト教徒たち礼拝中心地として盛えたが原爆爆発時の爆風で一部のかぐを残して倒壊、左は近くを流れる下に落下した鐘桜ドームまた爆熱や熱によって石はとけた。

こちらは原爆落下中心碑がある爆心地公園の写真です。爆心地公園では、原爆落下中心碑、被爆当時の地層、浦上天主堂の遺壁を見ました。下の川に残る被爆当時の地層には、茶碗が溶けたガラス片など、当時の生活感があるものが残っていて、ある日突然にして、人々の日常が奪われたんだということを感じました。右の写真は浦上天主堂から運ばれた遺壁の一部です。今紹介した場所以外でも、自分の足で歩き回って様々な原爆遺跡を訪れました。自分の目で見ることで、当時の被爆の大きさを実感することができて、戦争の恐ろしさ、そして現在までの平和の尊さについて考えが深まったフィールドワークだったと思います。

フィールドワークの他にも長崎でやったことはたくさんあります。被爆者の方からお話を聞いたり、長崎歴史文化博物館や原爆資料館を見学したり、平和祈念式典に参列したり、千羽鶴を長崎に捧げたりたくさんの貴重な体験をしました。原爆遺跡が残っているうちに皆さんにもぜひ自分の目で、耳で、肌で感じてほしいです。特に被爆体験者講話は、戦争経験者の高齢化が進んでおり、平和しか知らない私達が、戦争の実体験を聞けるのは今が最後のチャンスです。これを機に訪ねてみてはいかがでしょうか。

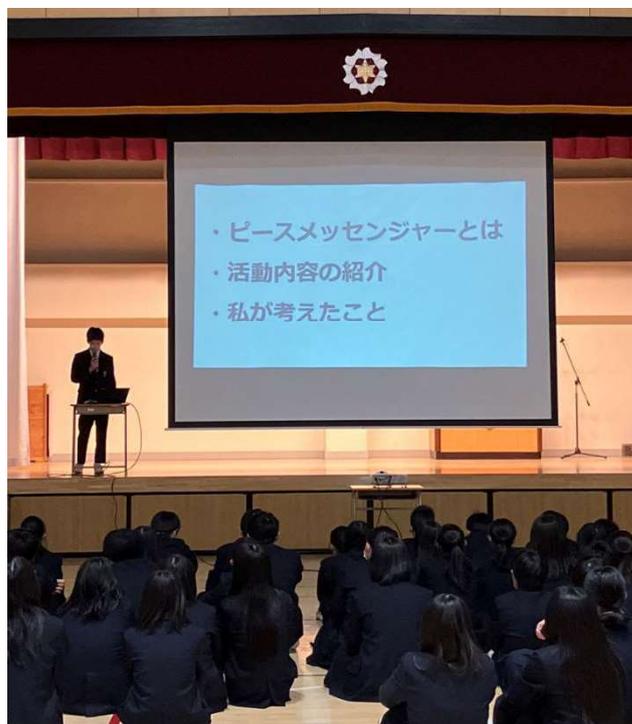
さて、長崎ではこの通り様々な体験をしましたがその中で私が一番皆さんに伝えたい活動内容はこの青少年ピースフォーラムです。青少年ピースフォーラムというのは、長崎に集まったピースメッセンジャー同士が平和について話し合う活動の事です。この集合写真でみんなが掲げているボードは一人ひとりの平和に対する思いを書いたものです。ここからは、私がピースフォーラムを通して得た意見についてお話します。

わたしたちは他地域から来たピースメッセンジャーたちと10人くらいのグループをつくって、なぜ争いは起きるのか、どうやったら争いがなくなるのかをテーマにみんなで話し合いました。なぜ争いが起きるのかという問いに対し私たちのグループが出した意見の一つが、争いが起きるのは、互いの違いを理解し受け入れることができないからであるというものです。

私はこれをもとに、争いをなくすには、お互いの違いを受け入れるにはどうすればいいかを辿って考えました。まず互いの違いを理解するには相手のことを知る必要があって、相手を知るにはコミュニケーションを取る必要があります。だから私は人としてコミュニケーションをとることを大事にしたい。そして皆さんにも大事にしてほしいと考えています。

しかし、これはあくまで私の願いに過ぎません。皆さんが考えることはきっと一人ひとり違うと思います。僕が皆さんに一番伝えたいのは、考えることで自分の意見をもてるということにあります。ピースフォーラムに参加する前は平和についてほとんど考えたことがなかった私でも、自分の行動の指針となる思いができたのです。だから皆さんにも平和について一度じっくり考えて、自分なりの意見を持ってほしい。これがピースメッセンジャーとしての私からのメッセージです。

私は少しでも多くの方が平和のために自分がどうしたいかを考えて生きてほしいと思っています。発表は以上です。ありがとうございました。



ピースメッセンジャー2024

岡本 華奈

晃華学園中学校3年の岡本華奈さんが全校集会の場で、派遣を通して学んだことや、平和の大切さについて発表しました。



派遣からの学び

- ・フィールドワークを通して長崎の地形を体感
- ・戦争や核兵器の悲惨さを語り継ぐこと
- ・全国にも仲間がいるということ



これから

- ・高校生では活動を拡大する
- ・広島、長崎以外の資料館などを訪問する
- ・世界情勢などの勉強

戦争や核兵器廃絶に向けて行動する

活動から得たもの

- ◎戦争や平和の理解を深める
→核兵器（原爆）への関心ができる
→幸せの実感と感謝
- ◎将来の夢が明確になる
→やる事が明確になり行動が変わる

学校のパンフレットに掲載されました。



第5部

資料

ピースメッセンジャーの取組以外にも
市は平和に向けた様々な取組を行って
います。

ちょうふピース部

ちょうふピース部とは

これまでに任命されたピースメッセンジャーたちが、派遣された年度以降も継続的に活動ができるよう、令和5年度に「ちょうふピース部」を立ち上げ、活動が始まりました。

令和7年3月現在、中学生～大学生の約30人が活動をしています。

令和6年度は、ピースメッセンジャー2024の学習会のサポートや交流、市が毎年発行している平和祈念情報誌「ピース・レターちょうふ」の特別版の作成、イベント等への出演、都内戦争関連資料館の見学などを行いました。



このロゴは「平和」や「愛」、「心」、「活動」をイメージしてメンバーが作成したオリジナルのロゴです。



ちょうふピース部の活動について詳細は市HP→



ピースメッセンジャー・ ちようふピース部交流会

日時：令和7年3月20日（祝）午前10時～正午
場所：教育会館301研修室

ピースメッセンジャー2024とちようふピース部の交流会を実施しました。

ピースメッセンジャーからは一年間活動してきた内容の報告を、ちようふピース部からは自分たちで作成した「ピース・レターちようふ」特別版などピース部の活動を紹介しました。

その後、レクリエーションゲームなどを通して仲を深めました。



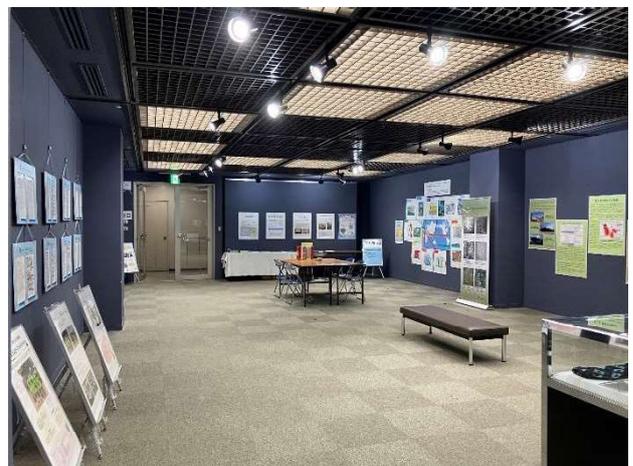
調布市平和展

戦争による被害の実相や次代を担う子どもたちの平和への想いなど、様々な角度から戦争・平和について学び、考える機会とするため「調布市平和展」を開催しています。

令和6年度は、8月6日(火)～12日(月・振休)に文化会館 たづくり南ギャラリーで開催しました。

戦争関連資料、原爆被災に関する資料をはじめ、ピースおおさかから借用した地域紛争下の子どもたちのパネル、子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2023受賞作品などの様々な戦争・平和に関する展示を実施しました。

また、調布市原爆被害者の会の協力により、開催期間中に会場内にて戦争体験者講話を実施しました。



折り鶴プロジェクト

市は「折り鶴プロジェクト」として、市民の皆さんが平和への想いを込めて折った折り鶴を被爆地に献納する取組を行っています。

令和6年度は、市内の中学生にご協力いただき、合計で約7,460羽の折り鶴が集まりました。

集まった折り鶴は、ちょうふピースメッセンジャー2024が長崎へ献納しました。たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。



ピースメッセンジャー2024



●これまでご協力いただいた折り鶴の数●

令和5年度	約7,7380羽(市内中学校で実施)	
令和4年度	約10,160羽(市内中学校で実施)	
令和3年度	約18,500羽(市内中学校で実施)	
令和2年度	約7,900羽(市内中学校で実施)	
令和元年度	約22,080羽(市内公共施設, 中学校, 平和イベント等で実施)	広島市へ献納
平成30年度	1,725羽(原爆展内で実施)	過年度分と合わせて長崎市へ献納
平成29年度	385羽(原爆展内で実施)	過年度分と合わせて広島市へ献納
平成28年度	535羽(平和展内で実施)	
平成27年度	47,518羽(平和祈念事業内で実施)	広島市へ献納

平和首長会議

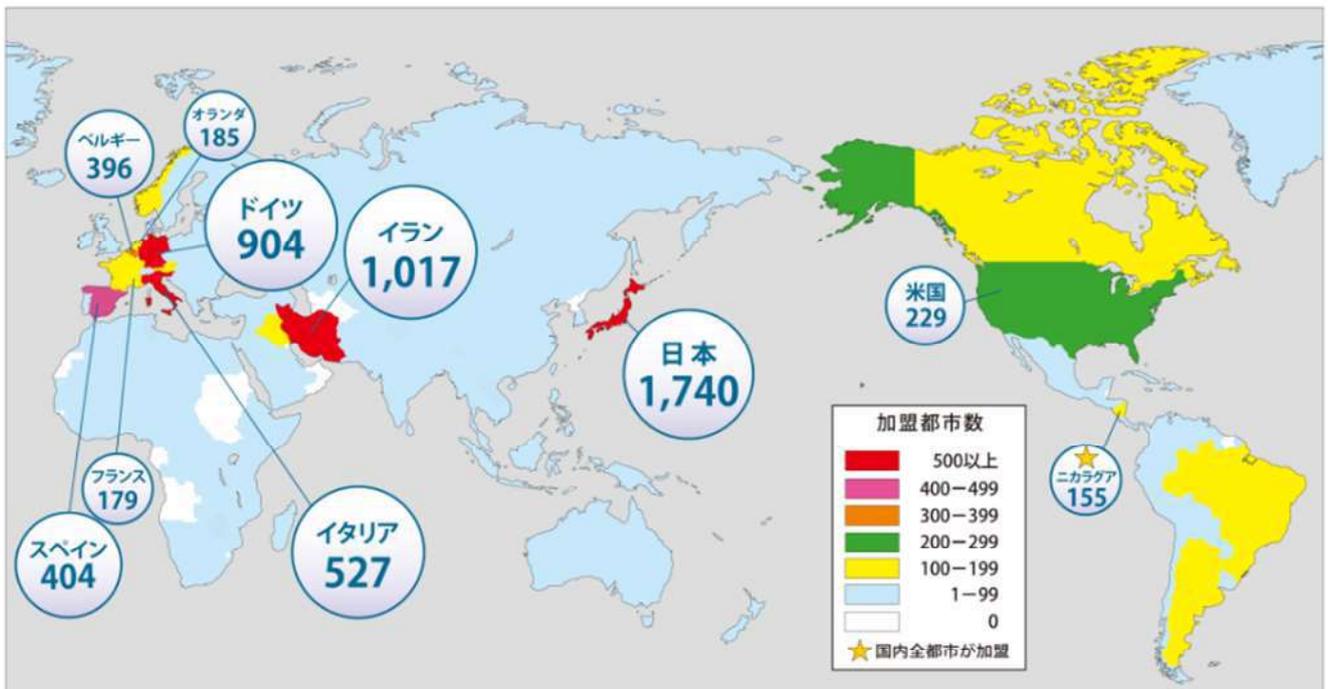
平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議」(平成25年8月6日付けで「平和首長会議」に名称変更)に加盟しました。



加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



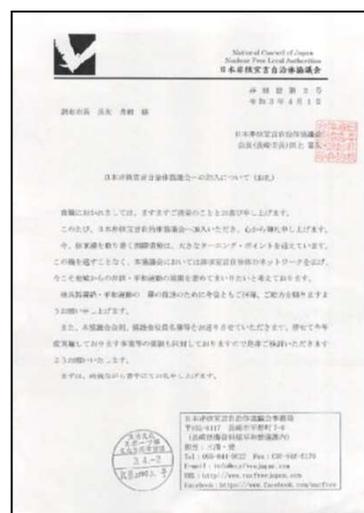
2025年2月1日現在

加盟都市数(令和7年2月1日現在)
166か国・地域 8,472都市 うち国内加盟都市数1,740都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

日本非核宣言自治体協議会

日本非核宣言自治体協議会は、「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」という趣旨の下、1984年に広島県府中町で設立されました。

令和3年4月1日、調布市は「日本非核宣言自治体協議会」に加入しました。



加入お礼状

	都道府県	市	特別区	町	村	合計
会員自治体数	1	204	7	126	22	360
自治体総数	47	792	23	743	183	1,788

令和7年2月時点

《非核宣言自治体とは》

平和を希求し、核兵器廃絶や非核三原則の遵守などを求める内容の自治体宣言や議会決議を行った自治体のこと。

1980年に英国のマンチェスター市が行った「マンチェスター市非核都市宣言」が、非核宣言運動を世界に広める契機となった。マンチェスター市が自らのまちを非核兵器地帯であると宣言し、他の自治体にも同様の宣言をするよう求めると、これに英国内の多くの自治体が賛同し、やがて宣言運動は世界に広がった。

日本でも非核宣言を行う自治体が増え、現在では1,650を超える自治体が宣言を行っている。

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布では、昭和58年9月27日に市議会が「調布市非核平和都市宣言」を、平成2年3月23日に市が「調布市国際交流平和都市宣言」をしています。

これらを踏まえ、市は、世界平和に向けて様々な平和祈念事業に取り組んでいます。

市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。

また、調布市グリーンホール壁面に掲示した平和都市宣言パネルは、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」を記念して、令和2年3月にリニューアルしたものです。

どちらも外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。



市役所前庭のパネル



調布市グリーンホール壁面のパネル

調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

市が加盟している平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図るため、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを平成30年度から実施しています。

令和6年度は、世界21か国123都市から4,208作品（6歳～10歳の部：2,312作品，11歳～15歳の部：1,896作品）の応募がありました。

市でも独自で賞を設け、市への応募作品45作品の中から受賞作品を選定しました。

全応募作品を令和7年3月4日(火)～12日(水)に文化会館たづくり1階エントランスにて開催した「調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト2024作品展」にて展示しました。また、3月9日(日)には、市独自の賞を受賞した受賞者を対象に授賞式を実施しました。



11歳～15歳の部
調布市長賞 伊藤 葵さん



作品展の様子



授賞式の様子

その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちょうふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちょうふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配付するとともに、公共施設に配架しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。

基金の原資は、市の予算による積立や、皆様からお寄せいただいた寄付金などです。平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちょうふ」の作成、「平和派遣事業」などがあります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。

【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139

調布市国際交流平和基金のHPはこちら



おわりに

「令和6年度調布市中学生被爆地平和派遣事業 ちょうふピースメッセンジャー2024 報告書」をご覧くださいありがとうございました。

実際に長崎へ行き、現地のピースボランティアに説明していただきながら自分の足で被爆遺構を巡ったこと、平和祈念式典に参列したこと、様々な自治体から集まった同世代の子どもたちと意見を交わしたことは、ピースメッセンジャーにとって貴重な経験になったことと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、活動を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

市は、戦争を知らない世代が増加していく中、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを着実に次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施して参ります。

令和7年3月

協力

- ・NPO法人ちょうふこどもネット
- ・FC 東京
- ・株式会社渋谷不動産エージェンツ

参考資料

- ・平和首長会議ホームページ
- ・日本非核宣言自治体協議会ホームページ
- ・長崎市ホームページ
- ・しょうけい館ホームページ
- ・平和祈念展示資料館ホームページ

表紙について

平和祈念像

郷土出身の彫刻家・北村西望氏の作で、昭和30年に完成。「右手は原爆を示し、左手は平和を、顔は戦争犠牲者の冥福を祈る」と作者の言葉が台座の裏に刻まれています。

(長崎市 HP より)

裏表紙について

平和の泉

水を求めながら亡くなった原爆犠牲者の冥福を祈り、昭和44年につくられたものです。

(長崎市 HP)

刊行物番号
2024—248

令和6年度調布市中学生被爆地平和派遣事業
ちようふピースメッセンジャー2024 報告書

発行日:令和7年3月

発行:調布市

編集:生活文化スポーツ部文化生涯学習課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話:042-481-7139(直通)

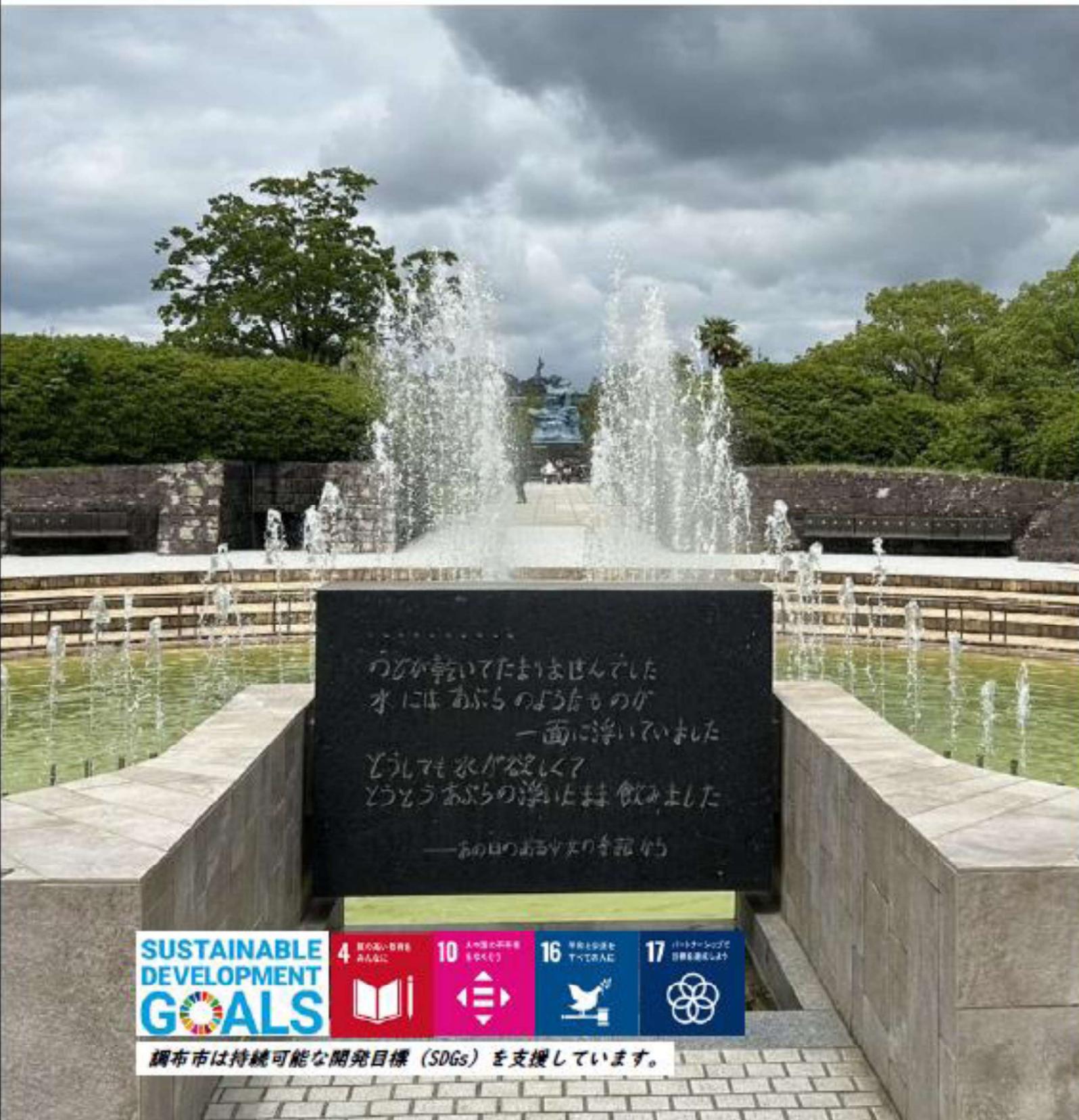
FAX:042-481-6881

E-mail:bunsin@city.chofu.lg.jp



ちようふピースメッセンジャー 2024

次代を担う子どもたちを市民の代表“ピースメッセンジャー”として任命し、被爆地への派遣などを通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指します。



.....
のどが乾いてたまりませんでした
水には あぶら のようなものが
一面に浮いていました
どうしても水が欲しく
どうとうあぶらの浮いた水は 飲みました
——あの日のあつさを今も忘れず

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



調布市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。